

山鹿中学校便り『チャレンジ&エラー』

令和2年6月16日(火)

No.4 文責 藤島浩一

学校の教育活動が本格的にスタートしました。



先週から通常通りの教育活動が再開し、授業や給食、そして部活動も活気を帯びて学校全体に躍動感が感じられます。特に、授業や部活動の最中に生徒たちの頑張る声が聞こえるとなんだか嬉しく心が弾んでしまいます。保護者のみなさまにもご覧いただき勢いを感じていただきたいと思っています。そのためにも授業参観を考えましたが、まだ、新型コロナウイルス感染症拡大防止に向けた取組が必要であり、3密を避けることから授業参観は実施せずに、各学年・学級による懇談会を実施する予定です。詳しくは、後日学校から文書でお知らせします。



生徒のあいさつが元気になるていします

4月から2か月が経ち6月も第3週目に入りました。約2か月間の学校休業が終わり学校再開していく中で、多くの生徒達とあいさつを交わしています。4月の始業式から比べるとあいさつの声が大きくなったり、いろんな場でのあいさつができています。大変嬉しく思うと同時に、先生方や生徒の意識が高くなっているのを感じています。また、校長室前を通る生徒達も校長室の中にいる私にあいさつをしてくれます。当然、私も校長室前を通る生徒たちにあいさつをします。私のあいさつに通り過ぎて気づき入口まで戻ってあいさつをしてくれる生徒もいます。嬉しくてつい名前を聞きに出ています。その他、用事があり職員室に入った生徒達は、次々にあいさつを先生たちと交わしてくれます。生徒のあいさつが聞こえると遠くからでも先生たちはあいさつをしてくれます。部活動終了後、校門では、疲れ切った心身の状況でも笑顔と元気を振り絞ってあいさつをしてくれます。先生方は、そんな姿に自分も負けられないぞ。と自分自身に激をとばしてあいさつを返されています。



ただ、このような状況ですが、あいさつが「どこでも、誰にでも」できているという状況ではありません。今後、「あいさつ日本一」に向けて、あいさつの素晴らしさや効果等をご家族で考える場をとっていただくとありがたいと思います。以前、組織に関する勉強会で、「コミュニケーション(あいさつ等)は組織の血液である」と聞いたことがあります。学校や家庭を組織(社会)と考えた時、活性化を図るのが血液(あいさつ)と考えれば、あいさつは学校や家庭を元気にする上でとても大切な力であると実感しています。

6月8日は、山鹿中「命の日」全員で命について考えました。

山鹿中学校では、毎年6月8日を「命の日」として全校生徒で命の大切さを考え再認識する日として取り組んでいます。詳しくは、各学級便り等で紹介してあると思います。命を大切にするには、自分自身が命と関わる経験や体験をすることが大切と思い、私からは校内放送で、植物でも動物でも責任を持って育てることで命というもの身近に感じられること。そして、どんなに大切に育てても生き物はいずれ死ぬこと。たくさんの命に触れて、生きているときの喜びと死んで離れていく時の悲しみを繰り返し体験することで命の価値や命の大切さを実感する。というお話をしました。各担任からもお話があり、生徒達は命について考える場となりました。生徒達はしっかり考えを持っていますので、ご家庭でも話題にし、話し合ってもらえたら幸いです。

